

NHK ラジオ「三宅民夫のマイあさ！」2020年9月16日 8時15分 OA

～災害の時ペットはどうする？～

出演：竜之介動物病院院長

九州動物学院学院長 徳田 竜之介 先生

※徳田さんは今年7月の球磨川水害時にペットの避難状況を調査されたそうですね。

徳田学院長 「そうですね」

※どんな状況でした？

徳田学院長「まず調査してわかったことは、ペットの状況をまとめたり発信したりするところがないんですね」「行政のどこの部署でやっているのかわからない。ペットの情報収集の難しいところはどこで集めているのか、わからないところです。」

※だからどうなっているか?事態がなかなか分かりづらいということですね。

徳田学院長「現地ではペットに関する情報がなく、対応がほとんどされてないため、現地に行ってみて初めてどのような状況なのかを、伝えることができました。」

※ほとんどされてない？

徳田学院長「ペットに関しては指示を出すべきところが機能しておらず、熊本地震を経験していますが、これが活かされていません。」

※一緒に居られる避難所というのは？

徳田学院長「一か所もありませんでした。ですからペットをどうしたらよいのかわからず、避難することがなかなか難しいのです。」

※熊本だけではないでしょうね？

徳田学院長「全国的にだと思います。」

※私も家で猫を飼っているのですがもし危険がせまり、災害が起きそうな場合どのように行動したらよいでしょうか？

徳田学院長「今までは、人命が一番だからペットは置いてまず逃げて、ペットは後から迎えに行ってください、という話でした。現在は、ペットと一緒に逃げてください、というガイドラインができてます。基本的にはペットと一緒に逃げないといけません。」

※それはどこのガイドラインですか？

徳田学院長「環境省からでてるガイドラインです。」

※環境省のガイドラインでは一緒に避難をするようにいっているのですね。

徳田学院長「それを同行避難と言います。」「ガイドラインでは動物との一緒に同行避難を呼びかけていますが避難所の居住スペースに入れる同伴避難とは違い、避難所居住スペースとは別の軒下等に繁留し、一緒に入れないことが問題となっています。」

※同行避難すべきだと言う事になっているけども、同伴避難は避難所では認められていない状況であるということですか？

徳田学院長「それが今の現状です。同行避難はオッケーが出ているのでペットと一緒に避難所へ連れて行けるのですが、その後がうまくいっていないのです。」

※あらためて避難所は、ペットについてはどのような状況になっていますか？

徳田学院長「避難所の環境によって違いますが、引き受ける場所もあればそうじゃない場所もあります。行ったら断られる所もあるので、ここでの判断がなかなか難しいです。」

※一緒にいることができる場所もある、その場合犬と人はどんな状況でいますか？

徳田学院長「もちろん一緒にいるのですが、そのような所は動物を飼ってない人から見ると、うるさい、臭い、ノミダニは大丈夫か、アレルギーであるとか、そんな問題が結構起きてトラブルになるのです。避難所でそういうトラブルになると災害弱者である、ペットや老人、人間の赤ちゃんは、どうしてもよその静かな場所に移ったりします。災害弱者である弱い立場の人は、申し訳ないと思いついて行くこととなります。そうすると避難所の雰囲気としてはよくないのです。」

※災害だから長期に及ぶこともあります、ペットといるとなかなか長くはられない感

じがするのでしょうか？

徳田学院長「はい。ですから落ち着いたら、車中泊、テント泊だとか外に出るのも一つの方法だと思います。どうしてもペットと避難所に一緒にいないといけない人は、肩身の狭い思いをしており、そのへんがペットとの関わり方がまだまだ整理されてないですね。つまり人と動物の命の格差があるということになるのです。」

※そんな場合に備えてフォローしておくべきこと、考えておくべきことはなんですか？

徳田学院長「基本的に、オシッコ、うんち等のしつけをしておかないといけません。人と動物が避難所で一緒に共同生活ができる条件として、ノミ、ダニ、しらみ等の駆除、ワクチンによる感染症対策をしたり、日頃から、むだ吠えをしないしつけや、キャリーケースに入れる訓練や、迷子対策のマイクロチップ装着等、しっかり準備しておくべきです。飼い主さんにとっては家族の一員ですが、飼ってない人からすると家族とは思っていないので、できれば遠ざけたい感じなのです。」

※ペットの飼い方は人それぞれさまざま、外で自然の中でという考えもあるでしょうけど、災害の時を考えるとペットもしつけをちゃんとして、言うことをちゃんと聞いてくれるようにしておかなければいけない。というようなことですね。

徳田学院長「そういうことです。日本ではペットを飼っている人が、周りにたくさんいるように思われがちですが、全世帯の 2 割しかいない、ペットを飼ってる人は少数派です。ペットを飼ってない人からすればペットは二の次です。今からペットはどんどん増えてきます。欧米では 6 割以上の方がペットを飼っていて、当然ペットも家族の一員として、更には社会の一員として認められています。家族の一員ではあるが、社会の一員として認められていないのが今の日本の現状です。その辺をよく考えて飼育しないと、ペットを飼っている人たちはどうしても苦情がでたり避けられてしまいます。」

※さきほど徳田さんがペットの災害時の被害に関する情報がぜんぜんなかった、集めるのがたいへんだったとおっしゃっていたのですが、災害に備えたり実際災害が起こった時に、情報というのはとても大切だと思うのですが、相談したり問い合わせたりできる場所はどこなのでしょうか？

徳田学院長「動物に関しての部署は国なら環境省、農林水産省ですが、動物と避難できる場所等の情報を提供する部署は今のところ国や県、市町村にはありません。災害動物の情

報が集まりやすい場所は、動物病院です。」

※動物病院でここに一緒に避難できるよ、こんなふうにした方が良いなど教えてもらえる
ということですか？

徳田学院長「現段階では、動物病院は避難所等災害動物に関する情報が一番集まる場所
といえます。飼い主の方は、日頃からそういう情報を集めておくべきです。今回、台風 10
号が九州に接近しました。台風はいつどこを通るのか予測できる自然災害のため、熊本市
では、今回初めて動物同伴避難所を開設し、動物を飼っている人はここに避難するように
呼びかけました。これは、とても画期的なことです。」

※そのあたりの情報が共有できれば、今後の参考になりますね。

「動物も社会の一員として、認めてほしいというのがポイントですから、みんなの意見で
行政だとか社会を動かさないといけないと思います。」

※徳田さん 30 秒あります。今一番伝えたい事一言お願いします。

徳田学院長「ペットがいないと生きていけない、ペットに支えられる人がいっぱいいるん
です。だからその人を助けたいのだったら、その人が飼っているペットも一緒に助けてほ
しいのです。ペットを助ければ、飼っている人を助けることになるのです。」

※ありがとうございます。これはいろんな考えの方がいると思いますがどうしていきべき
か議論していく必要があると思います。獣医師の徳田竜之介さんでした。